

20世紀転換期アラスカにおける日本人売買春

—「辺境」で見つけた「自由」—

大原関 一浩

はじめに

19世紀後半から20世紀初頭にかけて、国境を越える人やモノの動きが活性化し、さまざまな理由で日本から太平洋各地に渡航する人々が増加した。「からゆきさん」と呼ばれた日本人売買春女性たちもその一部で、森崎（1970年）および山崎（1977年）の作品を通じて彼女たちの存在が広く知られるようになった。北米西部およびハワイにおける日本人売買春の実態については、Ichioka（1977年）やHori（1980年）などの研究により明らかにされてきたが¹⁾、アラスカにおける日本人売買春については不明な点が多い²⁾。本論稿では、日本人移住者の手記、領事報告書、新聞記事、現地の公的史料（センサス・裁判記録）などを活用し、アラスカにおける日本人売買春の特徴を、合衆国西海岸における日本人売買春との比較から検討する³⁾。特に注目したいのは、アラスカという地域の辺境性である。

1) 森崎和江『からゆきさん』（朝日新聞社、1976年）；山崎朋子『あめゆきさんの歌—山田わかの数奇なる生涯』（文芸春秋、1978年）。

2) アラスカにおける売買春の歴史に関する主な先行研究として：Bay Ryley, *Gold Diggers of the Klondike: Prostitution in Dawson City, Yukon, 1898-1908* (Winnipeg, MB: Watson & Dwyer Publishing Ltd., 1997); Lael Morgan, *Good Time Girls of the Alaska-Yukon Gold Rush* (Vancouver: Whitecap Books, 1998); Catherine Holder Spude, *Saloons, Prostitutes, and Temperance in Alaska Territory* (Norman: University of Oklahoma Press, 2015)。

3) 外交省の機密文書に記録された売買春女性と周旋者の個人名は、本人とご家族への影響を配慮し、偽名を使う。ただし、英語の書籍や新聞記事、公的な記録（センサスや裁判記録）、日本語の新聞記事ですでに本名が使われている場合は、そのままにした。

北米西部への日本人移住と売買春産業

日本とハワイ王国間の条約にもとづく官約移民（1885～1894年）の開始以降、ハワイおよび合衆国への日本人移住が増加した。日本の諸港とバンクーバー（1887年）・シアトル（1896年）・サンフランシスコ（1898年）の間に定期航路が開かれると、日本・ハワイ・カナダ・合衆国西海岸の間に人の動きが活発化し、労働者の移住がさらに増加した。中国人排斥法成立（1882年）以降、西部各州では、農業・鉱山業・建設業・漁業・製材業などで労働力が不足し、中国人に代わる労働力として日本人が導入された。ロサンゼルス・サンフランシスコ・シアトル・バンクーバーなどの沿岸部各都市は、北米へ移住する日本人が最初に上陸する港町であり、20世紀初頭までに日本人コミュニティが発達していた。

日本人の労働移住が増えるなかで、日本人売買春女性も北米西部各地に現れた。1897～98年に西海岸各地の日本領事館が行った調査によれば、日本人売買春女性はカリフォルニア（150名）、ワシントン（69名）、オレゴン（75名）、アイダホ（23名）、モンタナ（16名）、ユタ（12名）など西部各州に存在し、特にシアトル（35名）、ポートランド（35名）、アストリア（10名）、スポケーン（20名）、ボイシ（12名）、ビュート（10名）、サンフランシスコ（38名）、ソルトレークシティ（12名）などの商業や貿易の中心地および鉱山地域に多かった⁴⁾。カナダ西部では、1890年ごろからヴィクトリアやバンクーバーなどの沿岸部で日本人売買春女性に関する領事報告や新聞記事が現れ始めたが、カナダにおける日本人売買春は、西部沿岸部ではなく、主に内陸の鉱山地域または鉄道の沿線地域（ネルソン・ロスランド・レヴェルストーク・グリーンウッド・キャルガリーなど）を中心に発達した⁵⁾。

4) 在タコマ二等領事齊藤幹、1897年4月2日、「公第十二号」、『外国法律ニ準拠シ処刑セラレタル在外本邦人氏名等帝国領事ヨリ報告雑件』4.1.4.34、外交史料館所蔵；在サンフランシスコ二等領事陸奥広吉、1898年8月11日、「加里福尼亞州ニ於ケル本邦醜業婦ニ関スル報告」、『外国法律ニ準拠シ処刑セラレタル在外本邦人氏名等帝国領事ヨリ報告雑件』4.1.4.34、外交史料館所蔵。

19世紀後半以降、急激な経済発展を遂げる合衆国およびカナダ西部では、鉱山業・製材業・漁業などで膨大な労働力が必要とされた。鉱山地域や都市部では、男性労働者を顧客とするサービス産業（飲食店・洗濯屋・ホテルなど）が成長し、売買春もその一つとして活況を呈した。西部各地の州刑法および市町村の条例では、売買春行為は処罰の対象となる違法行為と明記されていたが、売買春はホテル・レストラン・不動産業など現地のさまざまな産業に利益をもたらし、社会の秩序を安定させるための必要悪として、各地の行政府は黙認した。主に現地の警察が管理を担い、売買春女性たちを町の特定の地域に囲い込み、定期的に逮捕し、罰金を徴収することにより、非公式に認可・管理した。取締りを求める市民の声が強くなると、警察は逮捕の頻度を増やしたり、指定地域を移動させたりして対応したが⁵⁾、1910年代以前の西部各地では、売買春が社会経済の一部として許容されていた⁶⁾。

カナダ・ユーコン地方における状況

アラスカは1867年に合衆国政府がロシアから購入した属領地で、当初は軍隊が駐屯するだけで一般市民の入植は進まなかった。しかし、1880年に南東部のシルバー・ボー盆地（Silver Bow Basin）で、1893年にユーコン川流域のバーチ溪谷（Birch Creek）で金が発見されると、採掘目的の移住者が増えた。1896年にはカナダ・ユーコン準州のクロンダイク地方で膨大な金鉱が発見され、「クロンダイク・ゴールドラッシュ」（Klondike Gold Rush）が始まった。合衆国か

5) 在バンクーバー二等領事能勢辰五郎、1898年7月5日、「本邦醜業婦ニ関スル報告」、『外国法律ニ準拠シ処刑セラレタル在外本邦人氏名等帝国領事ヨリ報告雑件』4.1.4.34、外交史料館所蔵；在バンクーバー清水清三郎、「本邦醜業婦ノ状況」、1899年1月5日、『外国法律ニ準拠シ処刑セラレタル在外本邦人氏名等帝国領事ヨリ報告雑件』4.1.4.34、外交史料館所蔵。20世紀初頭のカナダ西部における日本人売買春女性の員数および就労地に関しては、長田長平『加奈陀の魔窟』（大陸日報社、1909年）、扉頁の地図、8～19頁。

6) Kazuhiro Oharazeki, *Japanese Prostitutes in the North American West, 1887-1920* (Seattle: University of Washington Press, 2016), 84-85.

図1 アラスカ地区で日本人売買春が記録された主な地域



らクロンダイク地方へのルートは2つあり、1つは、西部沿岸部のシアトル・ポートランド・サンフランシスコなどで乗船し、アラスカ東南部のダイア（Dyea）またはスカグウェー（Skagway）で下船し、そこからチルクート峠（Chilkoot Pass）を越えて北上し、ポートでユーコン川支流地域へ向かうルートである⁷⁾。もう1つは、アラスカ北西部のセント・マイケル（St. Michael）に上陸し、そこからユーコン川を東へ下り、国境を越えてユーコン準州の採掘地へ向かうルートである⁸⁾。クロンダイク地方にはいくつもの新興都市が現れ、特にユーコン川とクロンダイク川が交差するドーソン市（Dawson City）が移住者の拠点として発達し、人口は1897年の2,000人から1898年の60,000人へと

7) Ryley, *Gold Diggers of the Klondike*, 15-16; Charlene L. Porsild, *Gamblers and Dreamers: Women, Men, and Community in the Klondike* (Vancouver: University of British Columbia Press, 1998), 3-4, 6; Steven C. Levi, *Boom and Bust in the Alaska Goldfields: A Multicultural Adventure* (Westport, Conn.: Praeger, 2007), 18.

8) Morgan, *Good Time Girls*, 41; Levi, *Boom and Bust*, 17-18.

急増した⁹⁾。

合衆国西部の新興都市と同様に、ドーソン市でも急増する男性労働者向けのサービス業が発達し、売買春も増えた¹⁰⁾。当初、売買春は放置状態だったが、1899年、性病の蔓延に対する危惧感が高まり、現地の統治機構であるユーコン・カウンシル (Yukon Council) は、売買春女性たちを町の一角に移動させ、定期的な健康診断を義務付け、管理政策を開始した。具体的には、当地の警察業務を担う北西騎馬警官隊 (North West Mounted Police) が売買春女性を定期的に摘発し、罰金を払った女性たちは指定地での営業を黙認された。この管理政策は1900年ごろまで継続したが、1901年に住民からの苦情が強まると、警官隊は市内での売春を禁じ、女性たちに川向こうの町に移動することを命じた。女性たちの多くは移動したが、煙草屋など小規模ビジネス経営者に偽装して市内で売春を継続する人もいた¹¹⁾。

日本人はゴールドラッシュが始まる1890年代半ばからドーソン市に住み始め、小規模ビジネスに従事していた¹²⁾。日本人売買春女性も1898年ごろからその存在が確認されている¹³⁾。1900年1月、日本の女性雑誌『婦人新報』が、「クロンダイクの日本醜業婦」と題する記事を掲載し以下のように伝えた：「米国クロンダイクの金鉱は一攫万金の儲け場所とて、之に従事する者の金遣い荒し

9) Morgan, *Good Time Girls*, 46.

10) ドーソン市在住者の男女比は13:1 (1898年), 3:1 (1901年) だった: Porsild, *Gamblers and Dreamers*, 64.

11) Ryley, *Gold Diggers of the Klondike*, 51-63; Porsild, *Gamblers and Dreamers*, 101-10. さらに同年、カウンシルは酒類ライセンス法を成立させ、ホテル・バー・蒸気船上のみにおいて酒類の販売を許可し、売春営業もこれらの場所に限定した: Ryley, *Gold Diggers of the Klondike*, 55-56.

12) 1895年に移住しホテル経営・労働者斡旋などに従事した川上保太郎をはじめ、早い時期から日本人が居住していた: 藤岡紫郎『歩みの跡—北米大陸日本人開拓物語』(歩みの跡刊行後援会, 1957年), 388~99頁。

13) タコマ領事館・染谷事務代理の1898年の調べでは、ダイエ・ドーソン間に4人の女性がいたとあり、当時アラスカに住む女性は「一名ヲ除ク外悉皆醜業婦ナリ」と記されている: 在タコマ領事館事務代理染谷成章, 1898年8月29日, 「公第六十五号」『タコマ領事館報告書』6.1.6.26, 外交史料館所蔵: Frances Backhouse, *Women of the Klondike* (North Vancouver, B.C.: Whitecap Books, 2010), 101.

と見へ、本邦二名の醜業婦は僅々三ヶ月間に四万弗を稼ぎ、シヤトルへ帰り着きしは、この程のとなりしと報知新聞に見ゆ。悲しき報知を聞くもの哉¹⁴⁾。40,000ドルは当時の為替（1ドル=約2円）で80,000円だった。1900年当時、日本の小学校教員の月給が11円（\$5.49）だったことを考えると大金であり、国内でも北米でも日本人女性がこれほど高い収入を得られる職業はなかった¹⁵⁾。1901年3月には、現地の新聞 *Daily Klondike Nugget* が日本人女性に関する記事を掲載し、「4番街」（売買春指定地）に住む日本人女性「クサ・ヤメヤチ」（“T. Ksa Yameyachi”）が肺炎で亡くなったと報じている。その遺体は合衆国・オレゴン州ポートランドに住む妹のもとに送られ、サンフランシスコで埋葬される予定とある¹⁶⁾。また女性は「ドーソンの銀行の1つに（残した）かなりの額のほかに、日本の銀行に9,000ドルを残し……昨年彼女の崇拜者から送られたフレンチ・ヒルの採掘権も所有していた」という¹⁷⁾。売春による収入のほかに、客から金鉱採掘の利権も譲渡されていたことが示唆されており、この女性が大きな財を蓄えていたことがわかる。

ユーコンへの入り口：スキヤグウェイとジュノー

ユーコン地方への移住者が増えるなかで、そこに向かうルートの入り口として、アラスカ東南部の港町ジュノーとスキヤグウェイが成長した。スキヤグウェイでは、ユーコン地方へ通じる鉄道（White Pass and Yukon Route）の建設が始まった1898年初頭から人口が急増し、その多くが合衆国本土からの移住者だった。1900年のセンサスによれば、当市の住民の93%が合衆国市民で、その28%がシアトルから、10%がポートランドから、6%がサンフランシスコからの移住者だった。同市は、ユーコンをめざす移住労働者にとって最初の上陸地

14) 「クロンダイクの日本醜業婦」『婦人新報』33号（1900年1月）、8頁。

15) Yasuo Wakatsuki, “Japanese Emigration to the United States, 1866-1924: A Monograph,” *Perspectives in American History* 12 (1979): 389-516.

16) “Miss Ksa’s Last Request,” *Daily Klondike Nugget*, March 18, 1901, 1.

17) *Daily Klondike Nugget*, Mar 16 and 18, cited in Morgan, *Good Time Girls*, 90.

であり、彼らを顧客とするレストラン・洗濯屋などのサービス業が成長し、売春も同時に増えた。典型的なゴールドラッシュ期の「ブームタウン」(boomtown)である¹⁸⁾。

売買春女性たちは当初、酒場に付属する部屋で営業を行っていた。しかし1899年初頭、酒類販売のライセンス料が引き上げられると¹⁹⁾、酒場の数が減り、女性たちは「パラダイス通り」(Paradise Alley)と呼ばれる町の一角に移動し、「crib」と呼ばれた簡易な小屋で営業を始めた²⁰⁾。1898年～1900年頃、人口の増加とともに売買春女性の数が増え、公の場所での営業行為が目立つようになる。連邦政府の保安官補(Deputy Marshal)は、「飲酒」(“drunkenness”)や「治安紊乱行為」(“disorderly conduct”), または「悪徳の家の営業」(“operating a house of ill-fame”)などの罪でときおり売買春女性たちを摘発したが²¹⁾、連邦政府の方針としては、女性たちが静かに営業していれば黙認し、積極的に摘発しなかった²²⁾。ユーコン地方のゴールドラッシュとともに成長したこの町では、ドーソン市と同様、売春が地元経済の重要な一部になり、社会的秩序を守る必要悪として黙認されていた。

18) Spude, *Saloons, Prostitutes, and Temperance*, 6, 7, 11, 19, 22. 1900年時点で、スキヤグウェイの住民の60%が労働者階級の男性、40%が商人または専門職に従事する人々だった: *ibid.*, 64.

19) “The Mascot Saloon,” National Park Service, <https://www.nps.gov/klgo/learn/historyculture/mascot.htm>, 2023年6月25日閲覧.

20) Spude, *Saloons, Prostitutes, and Temperance*, 74-75.

21) Spude, *Saloons, Prostitutes, and Temperance*, 34. 現在のアラスカに当たる地域は、1884年以降、アラスカ地区(District of Alaska)と呼ばれ、知事・司法大臣・判事・そしてコミッショナー(Commissioner)が置かれた: Claus M Naske, *A History of the Alaska Federal Court System, 1884, and the Creation of the State Court* (Fairbanks: Alaska Court System and the Geophysical Institute, University of Alaska, Fairbanks, 1985), 8-9. 1884年以降、アラスカの地方裁判所(District Court)における審理は、アメリカの連邦法でなく、オレゴン州の法律(The Oregon Code)に基づいていた: Naske, *ibid.*, 21, 90. この状況は、1899年のアラスカ地区の刑法(Alaska Penal Code)と1900年のアラスカ地区の民法(Alaska Civil Code)の成立まで続いた: Jessica Van Buren, “Alaska Prestatehood Legal Research Resources,” in *Prestatehood Legal Materials: A Fifty-State Research Guide, Including New York City and the District of Columbia, Volume 1, a-M*, edited by Michael Chiorazzi, Marguerite Most (New York: Haworth Information Press, 2005), 32-33.

日本人女性も、ゴールドラッシュ期にスカグウェイに現れた。1899年1月、現地新聞 *Skagway News* は、「数人の日本人女性」が到着し²³⁾、パラダイス通りに「ジャップ通り」(“Jap Alley”)が現れたと報じた²⁴⁾。日本人売買春女性が営業する建物は、市議会の有力議員フランク・キラー (Frank Keelar) 氏が所有しており、彼の影響力も、日本人売春が黙認された一因だったと思われる²⁵⁾。しかし翌1900年、「ジャップ通り」が学校の近くに位置していたことから、児童への道徳的な影響を危惧する住民の声が高まり、1901年6月、市議会は日本人女性を含む売買春女性たちに同所からの退去を命じ、新たな売春指定地を「7番街」(“Seventh Avenue”)に設定した²⁶⁾。1903年から、町の売春管理の主体は、連邦政府から市政府に移り、売買春女性たちは、定期的な逮捕・罰金の支払いと引き換えに「7番街」での営業を許された。こうして非公式の売買春管理体制が確立されていった²⁷⁾。

1900年のセンサスでは、スキャグウェイで8名の日本人女性が記録されている(図2)。女性たちの年齢は18~24歳で、7名が「ヨコハマ通り」(“Yokohama Row/Alley”)に集住し、他1名(“Tossie Elopsis”)が「7番街」に居住している。全員、職業は「在宅」(“At Home”)と記録されているが、摘発を恐

22) 歴史家のスピュード (Spude) 氏によれば、連邦政府は、先住民への酒類販売以外の法律違反行為に関しては、積極的に取り締まらなかったという: Spude, *Saloons, Prostitutes, and Temperance*, 52, 75-76, 78. 1898年にスキャグウェイに市議会 (City Council) が設立された。住民から選出された議員のなかには、売春が行われる建物の所有者として間接的に利益を享受する者もいた: *ibid.*, 80.

23) Spude, *Saloons, Prostitutes, and Temperance*, 79-80.

24) Spude, *Saloons, Prostitutes, and Temperance*, 80.

25) キラーは、サンフランシスコに居住していた当時から日本人との関係が深く、スキャグウェイでは日本人 (Sangi Ikuta) を養子縁組している: Spude, *Saloons, Prostitutes, and Temperance*, 84-85, 87.

26) Spude, *Saloons, Prostitutes, and Temperance*, 90-96.

27) 1901年に着任した連邦政府の第1地区地方裁判所判事ブラウン (Melville C. Brown) は、賭博や売春の撲滅を求める地元住民たちの請願に応じ、1902年末にジュノーで酒場やダンスホールの賭博や売春を摘発したが、1903年以降は、売春の取締りは各地の行政府にゆだねる方針を打ち出した。これ以降、スキャグウェイでは市が売春管理の主体となった: Spude, *Saloons, Prostitutes, and Temperance*, 126, 136-45.

図2 スキャグウェイおよびダグラス島における日本人女性, 1900年

Place	Family Name	First Name	Date Locating in Alaska	Post-Office Address at Home	Year Birth	Age	Year Imm.	Occu.
Skagway		Esona	Apr 1900	Seattle	1877	22	1895	At home
Skagway	Esaka	Josie	Mar 1899	Los Angeles	1877	23	1895	At home
Skagway	Kavaska	Mary	Mar 1899	San Francisco	1877	22	1895	At home
Skagway	Mi	Hannah	Mar 1899	San Francisco	1876	24	1893	At home
Skagway	Naka	Fannie	Jun 1898	Seattle	1877	21	1895	At home
Skagway	Mow	Josie	May 1898	Seattle	1878	20	1895	At home
Skagway	Mow	Mamie	May 1898	Seattle	1880	18	1895	At home
Skagway	Elopi	Tossie	Jan 1900	Seattle	1876	24	1897	At home
Douglas	Kawaya	Meppy	May 1899	Kumamoto	1877	23	1898	Prostitute

[出典] U.S. Census, 1900

れてそう申告しただけで、実際は売春に従事していた可能性が高い。全員が「世帯主」(“head”)と記録され、夫の存在は記録されていない。女性たちの大半が1895年に合衆国に入国し、アラスカに移住したのは1895年5月～1900年4月の時期である。女性たちの「地元の郵送先住所」(“Post-Office Address at Home”)は、シアトル(5名)、サンフランシスコ(2名)、ロサンゼルス(1名)となっている。これらの情報から、女性たちはもともと合衆国西海岸に3～5年間滞在した後、ゴールドラッシュ期(1898～1900年ごろ)にアラスカへ移住したことがわかる。シアトルなどで売春に従事し、アラスカへ移住する男性労働者たち(客)を追うようにスキャグウェイへ移動したようだ。

同時期の連邦地区裁判所(District Court)には、逮捕され罰金を支払った日本人女性たちの記録がある。たとえば1898年4月、日本人女性3名(“Ida Jap,” “Katie Jap,” “Tossie Jap”)は、「治安(風紀)紊乱行為」(“disorderly conduct”)の罪でそれぞれ15ドルの罰金支払いを命じられている²⁸⁾。1900年7月には、日本人女性(“Lucy Suggy”)が「売春宿の経営」(“keeping a house of ill-fame”)の罪で、103ドルの罰金を支払っている²⁹⁾。前述のように、裁判所や警察は、

日本人売買春を基本的に黙認し、指定地の「ジャップ通り」(“Jap Alley”)に囲い込み、こうした時々の逮捕・罰金の支払いと引き換えに、営業を認めていたので、これらの逮捕は慣例的な業務の一部だったと言える。また、警察による管轄下(保護下)にあったという意味では、この地区に住む女性にとって売春は、「安全な」職業の一つだったと言うこともできる。

1900年のセンサスでは、対岸のダグラス島(Douglas Island)でも1名の日本人女性(“Meppy Kawaya”)が記録されている。この女性は、職業が「売春婦」(“Prostitute”)と記されており、同島の金山で働く労働者たちを相手に営業をしていたと思われる。「郵送先住所」は「クマモト」(“Kumamoto”)と記され、出身県を申告したと推測される。合衆国への入国は1898年で、まもなくアラスカへ移住している。同じ住所に2名の日本人男性が居住しており、職業は「洗濯人」(“laundryman”)とある。その一人(“Tommy Sawatani”)は、女性と同じ熊本県出身で、合衆国への入国とアラスカへの移住が女性と同じ年であることから、日本から行動を共にしていた可能性が高い³⁰⁾。当時、日本人女

28) “Ida Jap,” “Katie Jap,” “Tossie Jap,” April 1898, US Commissioner’s Court, Dyea, appearing in OS569, United States Commissioner, Skagway and Dyea: Civil, Criminal, and Probate Journal, Vol. I, Alaska State Archives (ASA). 当時は、アラスカの連邦地区裁判所が依拠していたのはオレゴン州の刑法で、Sec. 683には以下の様に記されている: “If any person shall be guilty of disorderly conduct, or of using obscene language before ladies, he shall, on conviction thereof, be fined in any sum not less than five, nor more than twenty-five dollars.”: State of Oregon, *The Organic and Other General Laws of Oregon: Together with the National Constitution, and Other Public acts and Statutes 1843-1872* (Salem, Oreg.: E. Semple, State Printer, 1874), 439.

29) “Lucy Suggy,” July 1900, US Commissioner’s Court for the District of Alaska, Skagway, appearing in OS568, 57-17184, United States Commissioner, Skagway and Dyea: Criminal Journal, Vol. II, ASA. この時、アラスカの連邦地区裁判所が依拠した法律は1899年に成立したアラスカ地区の刑法で、Sec. 127には以下の様に記されている: “That if any person shall keep or set up a house of ill fame, brothel, or bawdyhouse for the purpose of prostitution, fornication, or lewdness, such person, upon conviction thereof, shall be punished by imprisonment in the country jail not less than three months nor more than one year, or by fine not less than one hundred nor more than five hundred dollars”: Thomas H. Carter, *The laws of Alaska* (Chicago: Callaghan and Company, 1900), 27.

30) “Meppy Kawaya,” US Census, 1900, *FamilySearch* (<https://www.familysearch.org/>) (以下FMと記す).

性が一人で日本を出国し、合衆国へ入国することは難しかったので、しばしば日本人男性と偽装結婚して渡航した。また、単独での売春営業は危険であり、付随する男性が女性を客から守り、同時に生活を管理していた場合が多い。スキヤグウェイの女性たちにも、こうした男性たちが付随していた可能性がある。

スキヤグウェイから南方160キロに位置する港町ジュノーもまた、ユーコンへの通過点としてゴールドラッシュ期に成長した町の一つである。1880年、内陸へ6キロに位置するシルバー・ボー盆地で金が発見され、ジュノーに町が拓かれた。1881年には対岸のダグラス島・トレッドウェル (Tredwell) で金鉱が発見され、ジュノーの人口がさらに増えた。タコマ領事館・染谷事務代理の報告によれば、1895年頃、ジュノーで日本人が日本料理屋を開業し、1898年には料理屋と雑貨店が1つずつ存在した。日本人人口はジュノーに14名（うち3名が女性）、ダグラス島に12名（すべて男性）と記録されている³¹⁾。

史料の不足により、ジュノーにおける売買春の歴史には不明な点が多いが、歴史家のモーガン氏によれば、ゴールドラッシュ期、売春は酒場やダンスホールに付属した部屋で行われていたという³²⁾。早くから日本人女性もジュノーに現れ、1898年に当市を訪れた日本人旅行者・池田有親は、「当市は2500人程度の人口にして日本人は十五六人居住せり此内に二名の醜業婦ありと至る処汚点を印せざるなきは実に痛嘆の至りと云ふべし」と記している³³⁾。1900年のセンサスには日本人女性が2名記録されており、1名（名前不明）は、「宛名住所」がシアトルで、アラスカには1900年5月に移住したとある。もう一人（“Gasu”）は、「宛名住所」が横浜、アラスカ移住は1898年3月とある。二人とも、職業は“Sporting”（売春に従事する女性を意味する俗語）と記録されている³⁴⁾。1910年のセンサスを見ると、日本人女性1名（“Josie Tanaka”）（37歳）の記録がある。職業は“Demi Monde”（売買春女性と彼女たちが住む場所を示す俗

31) 在タコマ領事館染谷事務代理染谷成章、1898年8月29日、「アラスカ東南部地方巡回報告」『タコマ・シアトル領事館報告書』6.1.6.26, 外交史料館所蔵。

32) Morgan, *Good Time Girls*, 266-67.

33) 池田有親『アラスカ氷山旅行』（雲梯舎、1903年）、11.

34) “Gasu,” US Census, 1900, FM.

語)で、婚姻関係は“D”(=“Divorced”)となっている。1899年に合衆国に入国し、数年滞在した後、アラスカへ移住してきたことがわかる³⁵⁾。

新たなラッシュで勃興した町：ノームとフェアバンクス

1899年、アラスカ北西部の港町ノーム(Nome)付近で金が発見され、「ノーム・ゴールドラッシュ」(“Nome Gold Rush”)が始まると、ユーコン地方の採掘者たちがノームに殺到し、1900年夏までに当市の人口は20,000人に増えた。売買春女性もまもなく現れ、酒場に付属する部屋で営業を始めた。その他のゴールドラッシュで沸いたブームタウンと同様に、連邦地区裁判所は売春を積極的に取り締まらなかった。1901年にドーソン市で売春の取締りが厳格化すると、ノームへの移住者がさらに増え、売春も活況を呈したが、連邦政府の方針は変わらず、罰金の支払いと引き換えに売買春を黙認した。しかし、1904年ごろから黙認政策に対して住民たちが批判の声を強めると、ノーム市議会は酒場での売春を廃止し、指定地区を新たに設置した。「柵地」(“Stockade”)と呼ばれた新指定地は、3.6メートルの柵で囲われ、地区内での売買春は黙認された。1908年、新任の連邦裁判所判事ムーア(Alfred Moore)は売春に対して厳しい姿勢をとり、市議会に働きかけて「柵地」を廃止させたが、売買春女性たちは町中に拡散した。しかし、そのころまでにはノーム・ゴールドラッシュも終焉を迎え、男性労働者の人口が減少し、それとともに売買春業も衰退した³⁶⁾。

ノームの日本人売買春女性に関する記録は少ない。出入りの激しい港町であったこと、連邦政府による取締りが厳格に行われなかったことにより、裁判記録がそれほど残っていない。地元の新聞記事では、1905年に「柵地」が作られた時、そこへの移動を命じられた女性たちの名前のなかに日本人女性の名(“Japanese Kitty”)がある³⁷⁾。当時、北米で白人相手に売春営業をしてい

35) “Josie Tanaka,” US Census, 1900, FM.

36) Morgan, *Good Time Girls*, 161-79; Levi, *Boom and Bust*, 103.

37) *Nome Weekly Nugget*, Sept. 20, 1905, cited in Morgan, *Good Time Girls*, 178, n.67, 331.

た日本人女性は、白人男性が親しみやすい英語名をしばしば使用していたので、“Kitty”もそうした女性の一人であったと思われる。また連邦裁判所コミッショナーの記録（1906-07年分）を見ると³⁸⁾、日本人とみられる男性（“John Doe Hasama [Y. Hadama]”）が、「私通して同棲」（“cohabiting in a state of fornication”）の罪で摘発されている³⁹⁾。前述のように、日本人売買春女性にはしばしば付随する日本人男性たちが存在し、彼らは女性を客の暴力から守る一方で、女性の収入に依存し、賭博や飲酒で浪費した。連邦政府は売買春を黙認する一方で、女性に依存する男性を問題視し、摘発した。

アラスカで働く日本人女性たちは一つの場所に定住せず、各地を転住した。「ジャパニーズ・メリー」（“Japanese Mary”）として知られた日本人女性もその一人である。1907年、ノームで屋内マラソン大会が行われた際、メリーはギャンブルで1,000ドルを日本人男性の和田重次郎に賭け大金を獲得し、彼女はそれを元手に金鉱採掘に投資し、事業により得た収益で盛大なパーティーを開いたという⁴⁰⁾。しかし1911年、アラスカ北西部の内陸町イディタロッド（Iditarod）で「ジャパニーズ・メリー」または「メリー・トンプソン」（“Mary Thompson”）として知られる日本人女性が絞殺されて発見された。事件を報じた新聞記事によれば、事件当時、メリーが所持していた「金の鎖と十字架」と「多額の金銭」は紛失しており、彼女をシアトルから連れてきた男性（“Makuda”）が容疑者として逮捕された。メリーはノームやフェアバンクスでよく知られた人物であり、「オッター溪谷に価値のある採掘資産を持ってい

38) コミッショナー（Commissioner）は、地方裁判所判事の業務を補佐する役職であり、連邦政府の裁判権がある程度有する。刑事事件の予備審問、軽度の違犯行為に関する刑事・民事の裁判、捜査令状や逮捕令状の発給などを行う権限を持つ：Charles A. Lindquist, “The Origin and Development of the United States Commissioner System,” *American Journal of Legal History* 14: 1 (1970), 1-2.

39) 結果的にこの裁判は取り下げ（dismissed）となっている：#814, “John Doe Hasama [Y. Hadama],” OS891, United States Commissioner, C: Criminal Docket, 1906-07, 94, ASA.

40) Wallace, John B. “Nome Was Like That.” *Alaska Sportsman* (Oct. 1939), 33, cited in Morgan, *Good Time Girls*, 166-67; Wallace, “We Settled Disputes with Fists,” *Alaska Sportsman* (Nov. 1939), cited in Levi, *Boom and Bust*, 103.

た」と地元新聞は報じている⁴¹⁾。事件が起きた前年（1910年）、「メリー・トンプソン」と言う名の日本生まれの女性が合衆国政府センサスに記録されており、当時、彼女はシアトルに在住し、「既婚」だった⁴²⁾。シアトルとアラスカ各地に住み、採掘事業に投資するほどの資産を形成していた点で、彼女のモビリティと経済力は注目に値する。しかし、彼女が受けた暴力は、売春が危険を伴うリスクの高い仕事でもあったことも示している。

フェアバンクスは、アラスカで最後に急成長したゴールドラッシュの町である。1901年に交易所が拓かれ、翌1902年にタナナ溪谷（Tanana Valley）で金が発見されると、フェアバンクスの人口が急増し⁴³⁾、1905年に6,000人、翌1906年には8,000人に達した⁴⁴⁾。初期の移住者の大半は、ゴールドラッシュが終わり衰退しつつあったドーソンから来た人が多い。その他の町と同様、1903年には最初のダンスホールが設立され、まもなく売買春が活況を呈した。当初から、地方裁判所判事ウィッカーシャム（James Wickersham）の意向により、売春は組織的に管理され、女性たちは定期的に罰金を警察に払い、営業を認められた。

1906年には、「ライン」（“The Line”）と呼ばれる指定地区が設置され、女性たちは地区内の小屋で営業した⁴⁵⁾。1908年ごろから合衆国では、全国的に連邦政府の売春取締りが厳しくなり、アラスカの地方裁判所検察官クロスリー（James Crossley）も、売春関連行為の摘発を始めたが、フェアバンクスの市議会は黙認の姿勢をくずさず、指定地区を3.6メートルのフェンスで囲み、女

41) “Murdered at Iditarod,” *Fairbanks Alaska Citizen*, Oct. 23, 1911, 8; “Grand Jury Has Much Probing,” *Valdez Daily Prospector*, June 19, 1912, 1. メリーの葬儀には、「多くの代表的な市民が参加」し、6人の日本人が「美しいリースと記章」を準備したという：“Buried Last Monday,” *Iditarod Pioneer*, Oct. 28, 1911, 1.

42) “Mary Thompson,” US Census, 1910, FM.

43) “History of Fairbanks: Barnette Founded Fairbanks, but Gold Brought the People,” *Fairbanks, Alaska Information Site*, <http://fairbanks-alaska.com/fairbanks-history.htm>, 2023年6月25日閲覧.

44) National Survey of Historic Sites and Buildings, *Alaska History, 1741-1910* (Washington D.C.: US Dept of Interior, National Park Service, 1961), 214.

45) Morgan, *Good Time Girls*, 185-90. 市議会は女性を搾取する行為を厳しく取り締まり、付随する男性が指定地区「ライン」内に居住することを禁じた：*ibid.*, 192.

図3 フェアバンクスにおける日本人女性, 1910年

Family Name	First Name	Year Birth	Age	Marital Status	Year Imm.	Occupation
Yama	Mary	1885	24	Single	1890	At Home
Tonohai	Ito	1883	26	Single	1904	At Home
Matsishita	Mary	1884	25	Married	1900	Cook
Tomura	Mamie	1884	35	Divorced	1897	At Home

[出典] U.S. Census, 1910

性たちが市民の目に触れないよう配慮して管理売春が続けられた⁴⁶⁾。1907年に外国人売春に関する連邦法が改正され、合衆国で売春撲滅運動が高まっていた1909年、連邦政府は捜査官クロウズナズ (Kazis Krauczunas) をフェアバンクスに派遣した。クロウズナズは報告書のなかで、「町 (の人々) の一般的な感情は、売春に対して非常に好意的」であり、捜査が難航したことを記している。報告書によれば、売春は町の中心部で公然と行われており、売買春女性は150人ほど存在し、その大半は外国生れだった。女性たちは警察に月12.5ドル支払い、売春営業を黙認されていた。指定地区付近には女性に付随する周旋者たちの住む区画もあった。現地の警察はクロウズナズの捜査に協力せず、女性に付随する男性たちのなかには、彼に物品 (賄賂) を渡して摘発を逃れようとする者もいた⁴⁷⁾。

1910年のセンサスでは、フェアバンクスで4名の日本人女性が記録されている (図3)。「メリー・ヤマ」 (“Mary Yama”) (24歳) と「イト・トノハイ」 “Ito Tonohai” (26歳) は、売春指定地の位置する「4番通り」 (“Fourth Avenue”) に居住し、二人とも「独身」 (“S”=single) で「在宅」 (“At Home”) と記録され

46) Morgan, *Good Time Girls*, 193.47) Kazis Krauczunas, Inspector in Charge, to Inspector in Charge, Immigration Service, Seattle, Washington, August 22, 1909, 3-4, *Records of the Immigration and Naturalization Service, Series A: Subject Correspondence Files, Part 5: Prostitution and “White Slavery,” 1902-1903*, ed. Alan Kraut (Bethesda, Md.: University Publications of America, 1996), Reel 1.

ている。合衆国への入国は「ヤマ」が1890年、「トノハイ」が1904年である⁴⁸⁾。「メリー・マツシタ」(“Mary Matsishita” [sic]) (25歳)という女性は、夫(“Jake”)と同居し、職業は二人とも「料理人」(“cook”)と記されている。移住したのは二人とも1900年だった。この二人は、同年5月、スキヤグウェイのセンサス調査記録にも現れているので、この時期フェアバンクスから同市へ移住したことがわかる⁴⁹⁾。4人目の「マミー・タムラ」(“Mamie Tomura” [Tamura]) (35歳)という女性は、「離婚」(“Divorced”)と記録され、職業欄には「在宅」(“At Home”)と記されている。合衆国への入国は1897年だった⁵⁰⁾。当時、日本人女性が仕事をせずにアラスカで独居することはきわめて難しかったので、「マツシタ」以外の女性たちは売春で生計を立てていた可能性が高い。また1906年には、市内に住む3名の日本人女性が丸太小屋の前で写真を撮影されている。クリブ(売春用の廉価な小屋)で営業する売買春女性であると推測されるが、彼女たちの名前や身元は不明である(著作権の所在が不明なのでここに掲載できないが、モーガン氏の書籍 *Good Time Girls* の198頁に当該写真が掲載されているので参照されたい⁵¹⁾)。

上記4名のうち、「マミー・タムラ」という女性(日本名:「田村シカ」)については、ある程度、その人生をたどることができる。第二次大戦期の日系人収容所記録によれば、シカは1875年に「シコク」(“Shikoku”= 四国)に生まれ、1892年に合衆国へ入国している⁵²⁾。ワシントン州の出生・死亡記録によれば、シカには子供が2名あり、1901年10月にシアトルで娘「ロージー」(“Rosie Akimoto”)を出産し、父は「マサジロウ・アキモト」(“Masagero [sic] Akimoto”) (後述)とある⁵³⁾。1905年には、男子(名前不明)を出産し⁵⁴⁾,

48) “Mary Yama,” “Ito Tonohai,” US Census, 1910, FM.

49) “Mary Matsishita,” US Census, 1910, FM.

50) “Mamie Tomura,” US Census, 1910, FM.

51) Morgan, *Good Time Girls*, 198. この写真は、脚注の情報から、個人 (Paul Solka) からモーガン氏へ譲渡されたと推測される。

52) “Mamie Tamura,” United States Japanese Americans Relocated during World War II, 1942-1946, database, FM.

53) “Rosie Akimoto,” Washington Death Certificates, 1907-1960, database, FM.

その後アラスカに移住した。フェアバンクスの新聞 *Fairbanks Daily Times* によれば、1908年12月、シカは白人男性 (“S. B. Hundley”) と、トレジャー溪谷 (Treasure Creek) の土地に関する不動産譲渡証明書 (deed) を交わしている⁵⁵⁾。トレジャー溪谷とは、1907年に金・銀が発見された場所で、シカは採掘に関する権利を譲り受けたと思われる。

前述のとおり、1910年には、シカは秋元氏と離婚してフェアバンク스에 独居していたが、二人の子供がどう養育されていたのかについては不明である。1910年のセンサスを見ると、娘「ロージー」(10歳)と男子「ゲオ・アキモト」 (“Geo Akimoto”) (12歳) は、シアトルで仕立て屋を営む「ワタナベ」氏の家屋に「下宿人」 (“Lodger”) として滞在している。二人は「1909年11月以降学校に通っている」の欄に “Yes” と答えているので、シアトルに下宿しながら教育を受けていたようだ⁵⁶⁾。1919年、シアトルで学生をしていた娘「ロージー」は、市内のサナトリウムで「肺結核」 (“pulmonary tuberculosis”) のため死亡している (享年17歳)⁵⁷⁾。これらの細々とした史料から類推すると、シカはアラスカで売春や金鉱への投資から収入を得ながら、シアトルの知り合いに子供たちを預け、養育していたと思われる。

シカの (元) 夫は、「ジョージ・アキモト」 (“George M. Akimoto”) として知られたフェアバンクスの実業家・秋元政久氏である⁵⁸⁾。『在米日本人名辞典』(1922年)によれば、秋元氏は1872年に群馬県高崎市に生まれ、1890年にカナダ経由でシアトルに移住し、当初は地元の有力な実業家・古屋政次郎氏の経営する商店に4年間勤務しながら、レストランも経営していたようだ⁵⁹⁾。そ

54) “Akimoto,” King County Auditor, Birth Records, 1891-1907, Washington State Archives, Digital Archives (WSDA), <https://www.digitalarchives.wa.gov/>, 2023年6月25日閲覧。

55) “Filed for Record,” *Fairbanks Daily Times*, Dec. 9, 1908, 2. 土地をシカに売った Hundley は、1910~11年、金の採掘に従事していたと新聞が伝えている: “Water Drowns Out Engineer Operator,” *Fairbanks Daily News Miner*, January 04, 1911, 3; “Lots of Water on Pedro Creek,” *Fairbanks Daily News Miner*, June 10, 1910, 3.

56) “Geo Akimoto,” US Census, 1910, FM.

57) “Rosie - Masagero Akimoto - Shika Tamura,” Department of Health, Death Certificates, WSDA, 2023年6月25日閲覧。

58) “George M. Akimoto,” US Census, 1910, FM.

の後独立し、1901年までには、市内に自身の「秋元商店」を経営し、アラスカのキャナリーやユタ州の鉄道へ日本人労働者の斡旋も行った。その後アラスカに移住し、白人と共同で「酒舗」（酒場）を経営した。さらに秋元氏は「資本を得（て）宅地家屋を購入」し、市内に9か所の土地を所有していたという⁶⁰⁾。秋元氏の財産記録を調べたモーガン氏によれば、彼はフェアバンクスの売春指定地に多くの土地を持つ酒場経営者・トンプソン（Charles Thompson）の協力を得て、1917年までに同市の売春宿の30%以上を購入・所有していた⁶¹⁾。土地家屋を売買春女性に賃貸して利益を得ていたと推測される。1910年当時、センサス記録には「日本に妻」（“wife in Japan”）とあるので再婚していたようだが⁶²⁾、離婚したシカは同じ町に住んでおり、秋元氏から地所を賃貸していた可能性もある。

そもそも二人がどのように会い、アラスカに来たのかは不明だが、1908年、カナダ・ブリティッシュ・コロンビア州内陸部の日本人売買春を調査したジャーナリスト・長田正平は、著書『加奈陀の魔窟』で、秋元氏とシカについて以下のように記述している：

順序として先ずネルソンから初めるが抑々（ブリティッシュ・コロンビア州）ネルソンで初めて醜窟を開いたのは伊勢音である。彼は以前沙都（シアトル）に居た人間で沙港の魔窟の元祖も彼だと云ふことだ。千八百八十九年即ち明治二十二年に大火の為に沙港が全焼したとき、彼はテントを張て横浜の淫売あがりのお鹿と云ふ婦女などを連れて娼売をやらした程の古狸である

59) 1892年のシアトル住所録（R. L. Polk & Co., Seattle City Directory）には、“Akimoto M G, Restaurant 411 Jackson”とある：“R. L. Polk & Co., Seattle City Directory, 1891-1893,” WSDA.

60) 日米新聞社『在米日本人人名辞典』（日米新聞社、1922）、96頁。1901年7月、「秋元商店」の広告がシアトルの地元新聞『日本人』に掲載されている：『日本人』1901年7月3日、3頁。

61) Morgan, *Good Time Girls*, 200; “Personal Mention,” *Fairbanks Daily News Miner*, Feb. 8, 1913, 1.

62) “George M Akimoto,” FM.

が、彼がネルソンに這入りこんだのは今から十三四年も昔（1895～96年）のことだ。お鹿はネルソンには行かないで、沙都のパリス、ハウスで醜業を為っていた所、秋本（秋元）といふ男と関係し、秋本はお鹿が持つていた三四千弗の金を引出し、古屋商店の向ふを張て食料品商を出した事などがある、嬢夫兼正業者だ。ところが、其店も思ふやうに行かないので遂に閉店して、秋本、お鹿の二人はアラスカのヴァルデヅ（Valdez）に行つて、廣瀬と云ふ半破戸漢（ごろつき）の後を引受けてログ、ハウスで三人の婦女をつれて女郎屋を為て、今もアラスカ方面に居るとの事だが、一方伊勢音はお鹿か秋本と関係したことを聞付けて、ネルソンから沙都へ態々強制（ゆすり）に来たこと等もあつたさうだ……兎に角前にも記した通り、伊勢音がネルソンに踏込だのは既に十三四年前の昔であつて、当時彼は四人の婦女を日本から連れて来たのである。何れも密航だ。そして其四人悉く横浜辺の娼売人あがりで、中には神風でお職をつとえめたとやらのお勝といふ婦女なども交つて居た⁶³⁾。（※読みやすさを考慮し句読点を加えた）

この記述によれば、シカは「横浜の淫売あがり」で、「伊勢音」という男性に周旋され、シアトルで大火が起きた1889年頃、現地で売春をしていた。その後「伊勢音」とは別れ、シアトルの「パリス・ハウス」(“Paris House”) で売春をしていた時に、秋元氏と知りあった。秋元氏は、シカが売春により得た3,000～4,000ドルを使って食料品店を開き、その後、二人はアラスカのバルディーズ（Valdez）に移住し売春宿を経営した。入国してからシアトルで数年間過ごしたのち、アラスカに移住した経緯は、スキヤグウェイの日本人売買春女性たちと同様である。

二人のその後についても、史料からある程度わかる。秋元氏は1913年にいったんアラスカから日本に帰国しているが、1918年に再渡米し、1920年代にはカリフォルニア州サリナス市に居住していた⁶⁴⁾。これ以降の彼に関する記録は見

63) 長田『加奈陀の魔窟』, 35～36頁。

つかっていない。シカはアラスカで生活を続け、1920年、シアトル副領事・内藤啓三がアラスカを調査した時、シカはフェアバンクスから北東260キロに位置するサークル（Circle）付近で宿屋「ミラー・ロード・ハウス」（“Miller Road House”）を経営しており、所有する建物の価値は\$1,000、一年の売上高は\$3,500だった。内藤はシカについて、「尤ト醜業婦ト称セラルルト雖モ己ニ老齡ニシテ目下何等□等形跡ヲ有セザルノミナラズ独力ヲ以テ相当商業ヲ経営シツツアリ」と記しており、営業状態は上々だったようだ。1930年と1940年の合衆国センサスによれば、シカは同地で宿屋の経営を続け、職業は「洗濯女」（“Laundress”）と記録されている⁶⁵。戦前のサークルでシカと交流のあった男性労働者たちによれば、シカはミラーハウスに住み、男性たちの衣服を洗濯し、ビールを自家醸造し、困った人を資金援助し、人々から尊敬されていたという⁶⁶。こうしてシカは長年、一般の日本人と交わることなく、元「醜業婦」というまなざしにさらされることもなく、内陸の僻地で宿屋を経営し、地元の人々と交流し、独立した生活を送った。しかし、1942年に日米間で戦争が始まると、アイダホ州・ミニドカの日系人収容所に送られた。

その他の港町：バルディーズ、コルドバなど

秋元氏とシカが売春宿を経営したと伝えられるバルディーズ（Valdez）は、クロンダイク・ゴールドラッシュ期、鉱山に通じる港町として栄えた町であ

64) 1925年・1926年元日の『日米新聞』には、サリナス市の「謹賀新年」欄に「秋元政久」の名がある：『日米新聞』1925年1月1日、22頁；『日米新聞』1926年1月1日、36頁。1925年末の『日米新聞』記事によれば、ワトソンビル（Watsonville）の社交クラブの送別会で秋元政久が講談をしている：『日米新聞』1925年12月5日、7頁。

65) “Mamie Tamura,” US Census, 1930, FM. “Mamie Tamura,” US Census, 1940, FM.

66) Interview with Dan Bergevin, Tape #H97-03, Walter Roman, Tape #H87-74-08, Oscar Bredlie, Tape #H87-74-01, all recorded between 1983 and 1985, retrieved from Central Reflections Then and Now, website created by Circle District Historical Society, in partnership with University of Alaska, Fairbanks, <https://jukebox.uaf.edu/central/html/home.html>, 2023年6月25日閲覧。

る。当時、クロンダイクへは、スキヤグウェイから峠を越えていくルートと、セント・マイケルからユーコン川を下って行くルートがあったが、合衆国政府はより短い「アメリカ・ルート」の確立をめざし、1899年、バルディーズからフェアバンクスへ通じるリチャードソン・ハイウェイ (Richardson Highway) の建設を開始した。1902年には、ユーコン川の支流タナナ川で金が発見され、フェアバンクス・ゴールドラッシュが始まり、内陸部への入り口として、バルディーズが注目され、鉱山を目指す多くの男性が滞在した⁶⁷⁾。モーガン氏によれば、売買春女性たちに関する記録は残っていないが⁶⁸⁾、他のブームタウンと同様、バルディーズには膨大な男性労働者が居住していたので、彼らを客とする秋元夫妻のような業者が存在した可能性が高い。

バルディーズから南東へ70キロに位置するコルドバ (Cordova) も、近隣の鉱山開発とともに発達した港町で、売春に従事する日本人女性が存在した。1900年、コルドバの北東部にあるケニコット (Kennecott) で銅が発見され、1905年以降、グッゲンハイム家 (Guggenheim family) や J.P. モーガン (J. P. Morgan) 氏からの投資により鉱山開発が本格的化した。1908～11年、ケニコットからコルドバへ通じる鉄道 (Copper River and Northwestern Railway) が建設され、コルドバの人口が増加し、産業が発達し、コミュニティが成長した⁶⁹⁾。鉄道建設が進行中の1910年、センサスではコルドバで4名の日本人女性が記録されている (図4)。アラスカ各地の日本人売買春女性と同様に、渡米後数年を経てからアラスカに移住している。銅山や鉄道で働く労働者を客として営業していたと推測される。

20世紀初頭、コックとしてアラスカへ出稼ぎした日本人男性・川部惣太郎も、

67) Geoffrey Bleakley, "History of the Valdez Trail," National Park Service, <https://www.nps.gov/wrst/learn/historyculture/history-of-the-valdez-trail.htm>, 2023年6月25日閲覧。

68) Morgan, *Good Time Girls*, 275.

69) "Founding of Cordova," Cordova Historical Museum, <https://web.archive.org/web/20090703170654/http://cordovamuseum.org/historycordova.html>, 2023年6月25日閲覧； Robert L. S. Spude, Sandra McDermott Faulkner, *Kennecott, Alaska* (National Park Service: Anchorage, 1987), 1, 3, 5; William Alley, "Steel Rails and Ice: Alaska's Copper River & Northwestern Railway," *Railroad History* 168 (Spring 1993), 55-67.

図4 コルドバの日本人女性の数, 1910年

Family Name	First Name	Year Birth	Age	Marital Status	Year of Imm.	Occupation
Tsurukana	Ima	1882	28	Single	1905	At Home
Kogan	Kegiria	1877	32	Divorced	1899	At Home
Morioka	Inca	1885	24	Single	1905	Cook
Hayaski	Toma	1879	30	Single	1905	At Home

[出典] U. S. Census, 1910

コルドバで日本人女性たちを目撃している：「私は翌1910年（明治43年），カドバ（コルドバ）へ上陸した……銅山開発をめざしたノース・ウェスト鉄道の建設を進め，三千人の労働者が鉄道工事に従事していた。日本人も60人位いたし，女郎，ダンサーらも14，15人いて荒くれ男を相手に商売していた。日本人経営のレストランも6件あった」⁷⁰⁾。さらに川部氏によれば，これらの「お女郎」は，「ボスにひきいられ」ており，「日本人を客にとればいい仲になって逃亡される危険があるというので，もっぱら白人を相手にさせられていた」という⁷¹⁾。当時，合衆国西部やカナダでは，白人客のみを相手とする日本人売買春女性は「白人とり」，中国人のみを相手とする女性は「中国人とり」，日本人を相手とする女性は「日本人とり」と呼ばれ，客の人種によって分類されていた。女性に白人客のみを相手にさせたのは，白人客がアジア人客をとる日本人女性に嫌悪感を持ったというのが主な理由であるが，当時，日本人男性客をとる「日本人とり」のなかには，客と関係を持って逃亡する女性がしばしばいたので，そうした事態を未然に防ぐ方策の一つでもあった。いずれにしても，日本人男性の少ないコルドバでは，日本人女性たちは白人労働者を主な客にしていたようだ。

このころ，アラスカへ出稼ぎしたと伝えられる日本人女性として，のちに日本で著名な女性運動家となった山田わか氏がいる。山田氏は1879年に神奈川県

70) 伊藤一男『北米百年桜』第2巻（PMC出版，1984年），468頁。

71) *ibid.*, 468頁。

に生まれ、兄の借金を返すために横浜に出稼ぎし、そこで会った女性から勧誘され1890年代後半に合衆国へ渡航した。カナダ・ビクトリア港経由でシアトルに移動し、そこで「アラビアのお八重」という名で白人客専用の売春宿で働いていたが、1903年、日本人男性とサンフランシスコへ駆け落ちした。彼女がシアトルで生活していたころ、東洋エクスプレスで働いていた^{ため}佐宇八氏は、配達の際、山田氏と会話したことがあり、当時のことを以下のように述べている：

おわかさんが、「わたしは、アラスカへも行ったことがあるのよ」と言った声が残っちゃうような気もいたします。又聞きなので恐縮ですが、むかしアラスカの鮭漁のボスとして知られちょっと酒巻幸作さんは、アラスカでアラピヤお八重を見たことがある——と言っておられるそうです。1900年頃じゃったでしょう、アラスカに有名なクロンダイク金鉱が発見されて、白人も東洋人も、ひと旗組はわれもわれもアラスカへ出かけまして、そういう男たちをめぐってピンク＝カーテン（売春宿）の女たちも出稼ぎに行きました。そねなじ仲間のひとりとして、わかさんもアラスカへ行ったのでありますまいか⁷²⁾。

1890年代～1903年の時期は、アラスカの主要なゴールドラッシュと重なる時期であり、スキヤグウェイやコルドバの日本人女性たちと同様、山田氏もシアトルで「白人とり」として数年間過ごしたのち、アラスカへ出稼ぎした日本人女性の一人だったのかもしれない。

周旋方法と女性の社会背景について

日本人売買春女性たちの来歴を見ると、アラスカへの移住プロセスに、しばしば日本人男性たちが関与していたことがわかる。以下、日本人女性のアラス

72) 山崎『あめゆきさんの歌』、98頁。

カ向け周旋事例のいくつかを、合衆国西海岸における事例との比較および関連から検討する。

合衆国西海岸の場合と同じく、アラスカへ売春目的で女性を周旋する人々は、横浜に拠点を持つ場合が多かった。たとえば1898年2月、『読売新聞』と『朝日新聞』は、「横浜にて醜業婦を扱ふに有名なる」高取（高鳥）啓次郎が、「シヤートル港とクロンダイク金鉱出稼人搭載の目的にて横浜在留の丁抹人^{デンマーフ}が日本郵船会社より買い入れたる元の高砂丸即ちセンチニアル号」で3名の女性と米国へ密航を試み、水上警察により逮捕された、と報じた⁷³⁾。高取は、女性たちに「男子の如き装をなさしめ」、船底の石炭置場に潜伏させたが、数日間水とパンのみの生活に耐えきれなくなった女性たちは、渡航を見合わせるよう高取に申し出たところ、それを許さない高取とトラブルになり、水上警察が密航を探知したという。『朝日新聞』によれば、高取が周旋した3人の女性たちは、それぞれ横浜の外国人向け遊廓「神風楼」で「娼妓の出稼ぎ」をしていた女性、横浜で銘酒屋を経営していた女性、高取の「英語研究」留学の話に誘われた石炭・米商人の養女、だったという⁷⁴⁾。

明治・大正期、カナダおよび合衆国西部で売春に従事した日本人女性の渡航パターンは、大きく2つあった。1つは、現地で売春することのある程度承知で渡航したケースである。当時、横浜には外国人男性向けの売春宿や銘酒屋が数多くあり、遊廓「神風楼」もその一つである。シアトルやサンフランシスコの売春宿で働く女性たちは、渡航前からこうした売春宿で働いた経験があり、

73) 「海外密航婦人と水上分署」『読売新聞』1898年2月11日、4頁；「金鉱通ひ汽船の出帆」『朝日新聞』1898年2月14日、2頁。実際は、アメリカの汽船会社チャールズ・ネルソン社（Charles Nelson Company）の経営者タイソン氏（James Tyson）が日本郵船会社の高砂丸を買い受けた蒸気船で、同氏は、アラスカの鉄道会社にも投資していた：“Ho! For Nome, By State Line,” *San Francisco Call*, Sept. 30. 1901, 9; Murray Lundberg, “Rails to Riches: Historic Railways of Alaska & the Yukon,” *RailsNorth.com*, https://www.explorenorth.com/RailsNorth/rails_to_riches.html, 2023年6月25日閲覧。ハワイ官約移民の時代、日本郵船会社の「高砂丸」は移民を搭載して3回ハワイへ就航している：山田勉生『船にみる日本人移民史—笠戸丸からクルーズ客船へ』（中央公論社、1998年）、30頁。

74) 「金鉱通ひ汽船の出帆」『朝日新聞』1898年2月14日、2頁。

しばしば周旋者と渡航後に売春で渡航費を返済する契約を交わしていた。もう一つは、一般女性がだまされて渡航するケースである。当時の日本には、合衆国における女性の地位・大学教育・生活一般などを伝える女性向け雑誌が数多くあり、合衆国の生活にあこがれる若い女性たちが多数いた。周旋者はそうした女性に留学や日本人移民男性との縁談などの話を持ちかけ渡航させた。到着後、だまされたことに気づいた女性たちは、現地の救済施設や領事館に助けを求める人もいたが、大半は、渡航費返済のため売春に従事した⁷⁵⁾。高取が周旋した女性たちも、これら2つのパターンに適合する。

20世紀初頭、日本から北米向けに売春目的の渡航が増えた背景には、取り締まる法律がなかったことも一因としてある。前述の高取は後日、横浜地方裁判所で刑事告訴された。罪状の1つ目は、『移民保護規則』(1894年)および『移民保護法』(1896年)に対する違反である。両法律は、「労働ニ従事スルノ目的ヲ以テ外国ニ渡航スル者」を保護するため、周旋の手続きに関する規定を整備したもので、移民取扱人は行政庁の許可を受けなくてはならない。高取は、無許可で女性を周旋したので違犯の罪に問われたが、両法律の細則では、保護される渡航者の「労働」の種類は、「農業」・「漁業」・「家内労働」などに限られており、娼妓稼業は含まれない。そのため、「娼妓は出稼人即ち移民保護法による(保護の対象になる)べきものにあらず」という理由で、裁判所は高取を無罪とした⁷⁶⁾。

高取が問われた2つ目の罪は「幼者誘拐」である。事件が起きた当初、女性たちは密航を思いとどまり渡航の延期を希望した、と伝えられていた。しかし裁判当日、彼女たちは「誘拐せられしにあらず全く自己の希望にて米国へ娼妓出稼ぎに渡航せんとしたるものなることを申立」て、高取に対する「誘拐」の起訴が取り下げられた⁷⁷⁾。当時、日本国内の行政庁は、女性が雇用主と娼妓奉公契約を結び、鑑札を受けて営業することを認可しており、本人が望めば娼妓

75) Oharazeki, *Japanese Prostitutes*, Chap. 2.

76) 「醜業婦密航周旋者の無罪」『朝日新聞』1898年3月18日、5頁；外務省通商局『移民保護規則及施行細則』(外務省通商局第二課, 1894年), 1頁；外務省通商局『移民保護法及施行細則』(外務省通商局第二課, 1896年), 1頁。

になることは合法行為だった。一方で1890年代初頭、日本国家の対面を重んじる外務省は、海外における日本人売買春女性の存在を問題視し、女性の売春目的の海外渡航を規制する法律の制定を模索した。しかし、これについて司法大臣は、国内で娼妓稼業は認可されている一方で、海外へ売春目的で渡航する行為を国内法で処罰することは矛盾を生じる、と反対した⁷⁸⁾。こうした理由で、女性が周旋者や移住者の「妻」として、あるいは「家内労働」として旅券を受け、海外に渡航し売春に従事することが増えたのである。

北米向け売買春女性の渡航を伝える新聞記事では、だます周旋者とだまされる女性、という構図でしばしば描かれるが、その類型にあてはまらないケースもある。1909年4月、スキヤグウェイの「日本人倶楽部一同」から外務省あてに送られた投書によれば、同市で売春宿を経営する日本人女性・上田ヨシエは、伊予（和歌山県）に生まれ、15～16歳で家を出て「色男」と日本中を回り「親に心配掛け」、熊本市で醜業をしながら茶屋奉公をした。そこで妻子のある男性と関係し、本妻を離婚させたが、まもなく彼女自身が家を出て、中国地方、大阪府、尾張（愛知）、東京と移り住み、広島市である男性の妾となった。広島市では、石山辰吉という男性に勧誘され、横浜である夫婦から買い求めた旅券を使い、1899年ごろカナダへ渡航した。バンクーバーに夫婦として上陸し、ブリティッシュ・コロンビア州内陸部のネルソンで2年ほど「醜業」し、その後アラスカのスキヤグウェイに移動して2年ほど「醜業」した。1907年2月にシアトルに移動したが、石山は肺病にかかり、帰国したのち死亡した。ヨリエは市内の白人酒屋で働く広島県民・井口衆男と会い夫婦となり、その後再びスキヤグウェイに出稼ぎし「女郎屋」の主人をしたという⁷⁹⁾。領事報告書や外務

77) 高取は2ヶ月後、「故殺未遂」で刑事告訴された。この前年、高取は日本人女性をアメリカへ周旋したが、女性は福田某という男性と「私通」し、高取は男性をピストルで狙撃した。刑事起訴はこの出来事に基いていた：「米国にて故殺未遂」『読売新聞』1898年5月11日、4頁。

78) Oharazeki, *Japanese Prostitutes*, 19, 23-24, 174, 179-85.

79) シヤトル領事田中都吉、1909年4月12日、「広島県民井口衆男渡航不許可通知之件」、『本邦人不正業取締関係雑件』4.2.2.27、第3巻、外交史料館所蔵。

省に寄せられる日本人の投書などを読むと、だまされて渡航した女性だけでなく、ヨシエのように自らの意思で男性たちと関係をもち、渡航し、売春に従事した女性もいたことがわかる。

周旋者に関する史料は少ないが、合衆国本土の場合と同じく、その大半は、もともと出稼ぎのために移住した労働者だったようだ。1899年11月、スキヤグウェイの「醜業（者）」川本二郎と共謀し、バンクーバーから婦女輸入のために日本へ渡航したと噂された広島県人・松田五郎は、カナダ・ユーコン準州で汽船のコックだった⁸⁰⁾。船員やコックは、アラスカ各地の地理や現地の状況、輸送方法に詳しく、規制の緩いバンクーバーやヴィクトリア経由で合衆国に入国し、アラスカ各地へ輸送することができた。前述の上田ヨシエとスキヤグウェイに出稼ぎした井口衆男は、アラスカに来る以前は、シアトルのアメリカ人酒屋で働いており、英語会話がある程度できて、白人男性間での性的な需要についての知識もあったと推測される。このように、日本人労働者が、白人男性と接触することの多い仕事をするなかで、アラスカにおける白人男性受けの売春に商機を見出し、周旋に関わるようになった、というケースが多かったのではないだろうか。

売買春は初期の日本人移民コミュニティを経済的に支えていた側面もあり、実業家もしばしば売買春に関与することがあった。1914年3月、シアトル領事・高橋清は、外務大臣・牧野伸顕へ送付した報告書のなかで、日本に帰国中の吉田松之条氏（原籍：和歌山県那賀郡狩宿村）に対し、再渡航の旅券を発行しないよう要請している。高橋領事によれば、シアトルに住む吉田氏は、「柑橘輸入業ハ表面ヲ装フ手段ニシテ婦人密輸入ヲ本業トスルモノニ有々現ニ近年一婦人ヲ『アラスカ』ニ同伴シ莫大ノ金銭ヲ得テ帰国シタ」という。また、シアトルでは「嬪夫タリシコトモ露見致し」、「好マシカラサル人物」とであると報告している⁸¹⁾。『和歌山縣農業概要』（1931年）によれば、吉田氏は、1894年頃

80) 在タコマ二等領事林曾登吉、1898年12月13日、「広島県民松本五六醜業婦誘出ノタメ帰朝ノ義ニ付キ在タコマ領事ヨリ注意方新報之件」、『海外渡航関係雑件』3.8.2.49、第2巻、外交史料館所蔵。

から和歌山県から北米向けに柑橘類の直輸出を始めたパイオニアの一人だった⁸²⁾。1905年、バンクーバーに上陸した時、船客リスト・積荷目録には、吉田氏が1898年以來、スキヤグウェイ対岸のダグラス島に居住し、現地の居住先は「オノロ・バーバーショップ」(“Onoro Barber Shop”)と記録されている⁸³⁾。1912年には、神戸からシアトルに渡航しており、目的地はタコマ、職業は「営業者」(“salesman”)となっている⁸⁴⁾。翌1913年にも神戸からシアトルに渡航しており、目的地はオレゴン州ポートランド、職業は「商人・労働者」と記されている⁸⁵⁾。領事に嫌疑をかけられた1914年までに、吉田氏が日米間を頻繁に行き来していたことがわかる。

さらに、日本人男性が白人女性を周旋するケースもあった。1911年6月、アラスカの連邦地区裁判所で、戸田彦太郎(“Hikotaro Toda”)が⁸⁶⁾、白人女性を売春目的でアラスカ州・ケチカン(Ketchikan)に輸送した罪で刑事告訴された。訴状によれば、戸田がシアトルの売買春女性(Lenora Davis)に25ドルの郵便為替を送付し、女性はそれで船の切符を購入し、ケチカンに移動した。これが⁸⁷⁾、売春目的で州境を越えて女性を輸送することを禁じる「白人奴隷法」(White-Slave Traffic Act)(1910年)違反と見なされた⁸⁶⁾。船客リスト・積荷目録によれば、戸田は1874~75年生まれ、広島出身、当初の渡航年は不明だが⁸⁷⁾、1906年にバンクーバーに上陸した際、目的地は「ケチカン」となっている⁸⁷⁾。翌1907

81) 在シアトル領事高橋清一、1914年3月23日、「吉田松之条渡航差止方ニ関スル件」、『海外渡航関係雑件』3.8.2.49、第8巻、外交史料館所蔵。

82) 和歌山県内務部、『和歌山縣農業概要』(山成社印刷所、1931年)、46頁。

83) “Matsunojo Yoshida,” Mar. 1905, United States Border Crossings from Canada to United States, 1895-1956, database, FM; “Matsunojo Yoshida,” Mar. 17, 1905, Vermont, St. Albans Canadian Border Crossings, 1895-1954, database, FM.

84) “Matsunojo Yoshida,” Mar. 2, 1912, Washington, Seattle, Passenger Lists, 1890-1957, database, FM.

85) “Matsunojo Yoshida,” Mar 21, 1913, Washington, Seattle, Passenger Lists, 1890-1957, database, FM.

86) Act of June 25, 1910, ch. 395, 36 Stat. 825, *Statue at Large*, vol.36 (Washington, D.C.: Government Printing Office, 1911), 825-26.

87) “Hikotaro Toda,” May 10, 1904, Vermont, St. Albans Canadian Border Crossings, 1895-1954, database, FM.

年にもカナダに再渡航し、行き先は「サンフランシスコ」となっている⁸⁸⁾。職業は「労働者」で、1906～07年の時期は、ケチカンとサンフランシスコに居住していた⁸⁹⁾。1908年6月に再渡航した時は、最近の住所が「バンクーバー」で、職業は「魚商人」、行き先は「ケチカン」となっている⁹⁰⁾。翌1911年3月に再渡航した時も、最近の住所は「バンクーバー」、職業は「魚商人」、行き先は「ケチカン」となっている⁹¹⁾。それまでの合衆国における居住に関する欄には、「イエス・毎年の訪問」と答えている⁹²⁾。バンクーバーには、1911年、北米のマガキ産業で重要な役割を果たしたローヤル・フィッシュ会社（Royal Fish Company）が設立されたが、戸田はその設立にも参画している⁹³⁾。前述の吉田氏と同様、表向きは日本と北米間を行き来する実業家だった。

ちなみにケチカンは、アラスカへの入り口として発達した港であり、20世紀初頭に売買春が増えた。1890年代のアラスカ・ゴールドラッシュ期、合衆国本土から北へ向かう採鉱者たちが最初に立ち寄る港となり、1900年に市が発足した。またこの頃からケチカンの沿岸部ではサーモン漁が活況を呈し、多くの漁船が寄港し、市内に缶詰工場が設立された⁹⁴⁾。20世紀初頭、売春宿が町の沿岸部で増えると、市議会は地区を指定して売買春を黙認した。1903年、近隣住民

88) “Hikotaro Toda,” Dec. 2, 1907, Vermont, St. Albans Canadian Border Crossings, 1895-1954, database, FM.

89) “Hikotaro Toda,” Dec. 14, 1907, Vermont, St. Albans Canadian Border Crossings, 1895-1954, database, FM.

90) “Hikotaro Toda,” June. 15, 1908, Vermont, St. Albans Canadian Border Crossings, 1895-1954, database, FM.

91) “Hikotaro Toda,” Mar. 24, 1911, Vermont, St. Albans Canadian Border Crossings, 1895-1954, database, FM.

92) “Hikotaro Toda,” Feb. 25, 1911, Vermont, St. Albans Canadian Border Crossings, 1895-1954, database, FM.

93) 外務省通商局『海外日本実業者之調査』第2巻 [大正2年～大正4年] (不二出版, 2006年), 380頁。

94) “Ketchikan, Alaska,” Advisory Council on Historic Preservation, <https://www.achp.gov/preserve-america/community/ketchikan-alaska>, 2023年6月25日閲覧；David Kieffer, “Catching a Can in Ketchikan: A History of the ‘Canned Salmon Capital of the World,’” SitNews: Stories in the News, http://www.sitnews.us/Kiffer/SalmonCapital/092309_ketchikan.html, 2023年6月25日閲覧。

から苦情が出されると、売買春地区は南方の「インディアンタウン」(Indian Town)へ移された⁹⁵⁾。1917年、この地区で食料品店やカフェを経営し、宿泊用に部屋も貸していたジョージ・大橋 (George Ohashi) 氏は⁹⁶⁾、宿屋 (Japanese Lodging House) を経営していたチャーリー・カワバ (Charles Kawaba) 氏と共に、売春宿 (house of ill-fame) を経営した罪で刑事告訴されている⁹⁷⁾。売買春女性と男性客が彼らの経営する宿を利用したというだけで、もちろん大橋氏とカワバ氏が意図的に「売春宿」を経営したわけではなく、大橋氏への起訴は棄却、カワバ氏は無罪と判断された。1910年代後半、合衆国政府による売買春の取締りが厳格化するなかで、二人も売買春から副次的な利益を得た点が問題視され、摘発されたと思われる。しかし同時に、売春を黙認する現地の管理システムが⁸⁾、日本人ホテル業に間接的な利益をもたらしていたことも、これらの事例は示している。

95) June Allen, “Ketchikan’s Creek Street Dance Hall: Echoes of Music from the Past,” Sit-News: Stories in the News, http://www.sitnews.net/JuneAllen/Star/022104_star.html, 2023年6月25日閲覧。1904年、日本人と思われる女性 (Mamie Osign) が「ライセンスなしの違法な酒類販売」 (“selling intoxicating liquor without a license”) で逮捕され罰金を支払っている: “Mamie Osign,” June 1, 1904, US Commissioner’s Court, District of Alaska, First Division, Ketchikan, appearing in OS1268, United States Commissioner, Ketchikan: Criminal Journal 2, 1904-09, ASA. この地区にはもともと、先住民のティンギット部族が住んでいたが、1908年頃から小規模ビジネスに従事する日本人・中国人・フィリピン人などが住み始めていた: “Stedman-Thomas Historic District,” National Park Service, <https://www.nps.gov/places/stedman-thomas-historic-district.htm>, 2023年6月25日閲覧。

96) “Robert T. Ohashi” interview, Densho, <https://ddr.densho.org/narrators/587/>, 2023年6月25日閲覧。

97) 大橋氏の裁判は棄却、カワバ氏は無罪となった: “George Ohashi,” United States District Court, District of Alaska, First Division, no. 498-K, May 1917, Alaska State Archives; “Charlie Kawaba,” United States District Court, District of Alaska, First Division, no. 497-KB, May 1917, ASA. この裁判で依拠されたのはアラスカ準州成立時に編纂された法律 (Compiled Laws of Alaska) の第2007節 (Sec. 2007) で、内容は1899年のアラスカ刑法と同じである: “That if any person shall keep or set up a house of ill fame, brothel, or bawdyhouse for the purpose of prostitution, fornication, or lewdness, such person, upon conviction thereof, shall be punished by imprisonment in the country jail not less than three months nor more than one year, or by fine not less than one hundred nor more than five hundred dollars”: The Joint Committee on Territories of the Senate and House of Representatives, *Compiled Laws of Alaska, 1913* (Washington, D.C.: Government Printing Office, 1913), 674.

おわりに

20世紀初頭、合衆国本土では、都市化・工業化するなかで、革新主義の立場から、中産階級の活動家たちが貧困や犯罪などを問題視し、さまざまな改革運動を起こした。そうしたなかで、売買春撲滅運動と移民排斥運動が連動しながら高まり、連邦政府も外国人売買春の摘発を強化していった。合衆国西部でも1910年代までには、定住者の増加とともに家庭を中心とする社会秩序が形成され、開拓時代の遺産である売買春が容認されない社会雰囲気が強まり、各地の行政府は黙認政策を撤廃する方針に転換していった。1910年代後半にはアラスカでも、連邦地区裁判所で一時的に売春関連行為に対する起訴が増え、1919年には、アラスカ準州政府が、本土の各州と同様に「差し止め・排除法」(Injunction and Abatement Bill)を成立させ、市民が直接、売春が行われている家屋の差し止めを裁判所に訴えることを可能にするなど、本土の動きに多少影響を受けていたようだ⁹⁸⁾。しかし、1900~20年の時期を通じて、アラスカの地区裁判所も市町村政府も、本土に比べると積極的には売買春を摘発していない。その要因として、1) ゴールドラッシュが終わり、労働者の減少とともに売買春女性の数が減ったこと(目立たなくなったこと)、2) アラスカの人口が1910年代を通じて減少し、定住社会の形成が本土にくらべて遅かったこと、などが考えられる⁹⁹⁾。アラスカに住む日本人の数は279名(1900年)、913名(1910年)、312名(1920年)と伸びず¹⁰⁰⁾、日本人売買春も衰退し、1920年代以降は売

98) Index to Juneau Criminal Case Files, 1900 to 1955, ASA; Index to Fairbanks Criminal Cases, 1900-1955, Alaska State Archives; Joseph Mayer, *The Regulation of Commercialized Vice: An Analysis of the Transition from Segregation to Repression in the United States* (New York: Klebold Press, 1922), 31.

99) 1900~1910年の時期、ノームでは87%、スキヤグウェイでは81%人口が減少した。アラスカ全体でも、1910年代、人口が64,000(1910)、55,000(1920)と減少した: Bureau of the Census, *Fourteenth Census of the United States: 1920, Bulletin, Population: Alaska* (Washington, D. C.: Government Printing Office, 1921), 2; Sandberg, Eric, et al., *A History of Alaska Population* (Juneau: Alaska Department of Labor and Workforce Development, 2013), 10.

100) Bureau of the Census, *Fourteenth Census of the United States: 1920, Bulletin*, 2.

買春女性に関する記録も見られなくなる。

20世紀転換期のアラスカにおける売買春の歴史において、日本人売買春はどのように位置づけられるのだろうか。白人その他の民族集団による売買春と同様に、日本人売買春もゴールドラッシュとともに増え、売春を許容する現地政府の性管理システムに組み込まれていた。日本人女性たちが白人女性たちに比べて人種による差別を受けていたという事例は、入手した史料を見るかぎり、少数の事件を除いては確認できなかった。アラスカは本土に比べて日本人人口が小さく、白人が日本人に対して排斥運動を起こしたり、現地住民が特に日本人売春に対する苦情を出したということにはなかった。この点については、日本人の定住が進まなかったカナダ内陸部における日本人売買春の状況と類似しており、日本人移民の数が少ない僻地では、売春を許容する現地社会に日本人女性も溶け込んでいた。

日本人売買春女性にとってアラスカはどのような土地だったのか。現地新聞では、殺害された日本人女性についての記事がいくつかあり、売春が危険な仕事であったことがわかる。アラスカの日本人女性たちは、当初は本土西海岸の都市で働き、ゴールドラッシュ期に移住してきた人が多い。1900年頃は、西部各地でも外国人売春に対する社会の目が厳しくなり始めた時期でもあり、そうしたなかで日本人女性たちは、売春に寛容なアラスカ諸地域へ拠点を移していった。アラスカにおける日本人売買春女性に関して特筆すべき点は、売春による収入だけでなく、金鉱採掘など各種事業へ投資し、大きな資産を得た人が複数いたことである。アラスカは、合衆国本土と比べて、外国人売春に対する社会の態度は寛容で、日本人が集住する西海岸のコミュニティからも遠く、「醜業婦」に対する厳しいまなざしにさらされることもなく、日本人売買春女性が比較的「自由」に生きられる土地だった。遠く離れたアラスカの奥地で民宿を経営し、現地の人々と交流した田村シカの事例から、日本人売買春女性にとってのアラスカの「生きやすさ」を読みとることはできないだろうか。

最後に、アラスカと日本人売買春の歴史は、日本人移民史のなかでどのように位置づけられるのか。日本人の移住が進まなかったアラスカやカナダ内陸部

は、本土西海岸の日本人コミュニティに住む人々から見れば「辺境」だった。「辺境」であったからこそ、売買春女性や周旋者は、売春が黙認される雰囲気の中で、現地の人々と交わり、自由な経済活動を行うことができたと言える。また、これはアラスカやカナダ西部に限ったことではなく、当時のアジア・太平洋地域でも、日本人売春は一般の日本人移民が住まない開拓地／「辺境」地域で活況を呈していた。「辺境」地域に住む日本人売春女性は、一般の日本人移民社会とどのような関係にあったのか。そうした「辺境」で売春に従事した日本人女性の経験は、アラスカやカナダ内陸部の日本人売買春女性の経験とどのような類似点・相違点があったのか。20世紀転換期の東南アジア・極東ロシア・北東中国・アフリカの辺境地域における日本人売買春との比較のなかで、北米西部における日本人売買春の構造がより明らかになるだろう。搾取や暴力といった側面だけでなく、日本人が住まない海外の「辺境」で日本人女性たちが獲得した経済的・社会的な「自由」、その意味について考察を深めたい。

(謝辞) 本研究は、JSPS 科研費 JP19K12622 の助成を受けたものです。また、アラスカ州立公文書館で調査をサポートして下さった Leah Hainebach 氏、田村シカと秋元政久に関する情報を提供して下さった Kristina Bielenberg 氏にお礼を申し上げます。

参考文献

- Allen, June. *Dolly's House, No. 24 Creek Street*. Tongass Pub. Co., 1976.
- Alley, William. "Steel Rails and Ice: Alaska's Copper River & Northwestern Railway." *Railroad History* 168 (Spring 1993): 51-72.
- Backhouse, Frances. *Women of the Klondike*. North Vancouver, B. C.: Whitecap Books, 2010.
- Bay, Ryley. *Gold Diggers of the Klondike: Prostitution in Dawson City, Yukon, 1898-1908*. Winnipeg, MB: Watson & Dwyer Publishing Ltd., 1997.
- Bureau of the Census. *Fourteenth Census of the United States: 1920, Bulletin, Population: Alaska*. Washington, D. C.: Government Printing Office, 1921.
- Carter, Thomas H. *The Laws of Alaska*. Chicago: Callaghan and Company, 1900.
- "Catching a Can in Ketchikan: A History of the 'Canned Salmon Capital of the World.'" Sit-

- News: Stories in the News. Sep. 23, 2009.
https://www.sitnews.us/Kiffer/SalmonCapital/092309_ketchikan.html.
- Collins, Jan MacKell. *Good Time Girls of the Pacific Northwest: A Red-Light History of Washington, Oregon, and Alaska*. Lanham, MD: TwoDot, 2020.
- “Founding of Cordova.” Cordova Historical Museum.
<https://web.archive.org/web/20090703170654/http://cordovamuseum.org/historycordova.html>.
- “History of Fairbanks: Barnette Founded Fairbanks, but Gold Brought the People.” Fairbanks, Alaska Information Site. <http://fairbanks-alaska.com/fairbanks-history.htm>.
- “History of the Valdez Trail.” National Park Service.
<https://www.nps.gov/wrst/learn/historyculture/history-of-the-valdez-trail.htm>.
- Hori, Joan. “Japanese Prostitution in Hawaii During the Immigration Period.” *Hawaiian Journal of History* 15 (1981): 113–24.
- Ichioka, Yuji. “Ameyuki-San: Japanese Prostitutes in Nineteenth-Century America.” *Amerasia Journal* 4, no. 1 (1977): 1–21.
- “Ketchikan, Alaska.” Advisory Council on Historic Preservation. <https://www.achp.gov/preserve-america/community/ketchikan-alaska>.
- “Ketchikan’s Creek Street Dance Hall: Echoes of Music from the Past.” SitNews: Stories in the News. Feb. 21, 2004. http://www.sitnews.net/JuneAllen/Star/022104_star.html.
- Kraut, Alan, ed. *Records of the Immigration and Naturalization Service, Series A: Subject Correspondence Files, Part 5: Prostitution and “White Slavery,” 1902–1903*. Bethesda, Md.: University Publications of America, 1996.
- Levi, Steven C. *Boom and Bust in the Alaska Goldfields: A Multicultural Adventure*. Westport, Conn.: Praeger, 2007.
- Lindquist, Charles A. “The Origin and Development of the United States Commissioner System.” *American Journal of Legal History* 14: 1(1970): 1–16.
- Mayer, Joseph. *The Regulation of Commercialized Vice: An Analysis of the Transition from Segregation to Repression in the United States*. New York: Klebold Press, 1922.
- Morgan, Lael. “Fairbanks History under a Red Light.” *Fairbanks Daily News Miner* (Fairbanks), 1998, 54–58.
- . *Good Time Girls of the Alaska-Yukon Gold Rush*. Vancouver: Whitecap Books, 1998. Bibliographies
- National Survey of Historic Sites and Buildings, *Alaska History, 1741–1910*. Washington D. C.: US Dept of Interior, National Park Service, 1961.
- Naske, Claus-M. “The Red Lights of Fairbanks: Prostitution in Alaska in 1909.” *Alaska Journal* 14 (1984): 28–32.
- . *A History of the Alaska Federal Court System, 1884, and the Creation of the State Court*. Fairbanks: Alaska Court System and the Geophysical Institute, University of Alaska,

- Fairbanks, 1985.
- Oharazeki, Kazuhiro. *Japanese Prostitutes in the North American West, 1887-1920*. Seattle: University of Washington Press, 2016.
- Porsild, Charlene L. *Gamblers and Dreamers: Women, Men, and Community in the Klondike*. Vancouver: University of British Columbia Press, 1998.
- “Rails to Riches: Historic Railways of Alaska & the Yukon.” RAILSNorth. com.
https://www.explorenorth.com/RailsNorth/rails_to_riches.html.
- Sandberg, Eric, et al. *A History of Alaska Population*. Juneau: Alaska Department of Labor and Workforce Development, 2013.
- Spude, Catherine HoIder. “Brothel sand Saloons: An Archaeology of Gender in the American West.” *Historical Archaeology* 39: 1 (2005): 89-106.
- . *The Mascot Saloon: Archeological Investigations in Skagway, Alaska, Volume 10*. Anchorage: National Park Service, U. S. Department of Interior, 1983.
- . *Saloons, Prostitutes, and Temperance in Alaska Territory*. Norman: University of Oklahoma Press, 2015.
- Spude, Robert L. S., Sandra McDermott Faulkner. *Kennecott, Alaska*. Anchorage: National Park Service, 1987.
- . *Skagway, District of Alaska, 1884-1912*. Fairbanks: Anthropology and Historic Preservation, Cooperative Park Studies Unit, University of Alaska Fairbanks, 1983.
- State of Oregon. *The Organic and Other General Laws of Oregon: Together with the National Constitution, and Other Public Acts and Statutes 1843-1872*. Salem, Oreg.: E. Semple, State Printer, 1874.
- “Stedman-Thomas Historic District.” National Park Service. <https://www.nps.gov/places/stedman-thomas-historic-district.htm>.
- The Joint Committee on Territories of the Senate and House of Representatives. *Compiled Laws of Alaska, 1913*. Washington, D. C.: Government Printing Office, 1913.
- Van Buren, Jessica. “Alaska Prestatehood Legal Research Resources.” In *Prestatehood Legal Materials: A Fifty-State Research Guide, Including New York City and the District of Columbia, Volume I, A-M*. Edited by Michael Chiorazzi, Marguerite Most. New York: Haworth Information Press, 2005.
- Wakatsuki, Yasuo. “Japanese Emigration to the United States, 1866-1924: A Monograph.” *Perspectives in American History* 12 (1979): 389-516.
- 池田有親 1903 『アラスカ氷山旅行』雲梯舎。
- 伊藤一男 1984 『北米百年桜』第2巻 PMC 出版。
- 外務省通商局 1894 『移民保護規則及施行細則』外務省通商局第二課。
- . 1896 『移民保護法及施行細則』外務省通商局第二課。
- 外務省通商局 2006 [1913~14] 『海外日本実業者之調査』第二巻 [大正2年~大正4年]

不二出版.

長田長平 1909『加奈陀の魔窟』大陸日報社.

日米新聞社 1922『在米日本人人名辞典』日米新聞社.

藤岡紫郎 1957『歩みの跡 — 北米大陸日本人開拓物語』歩みの跡刊行後援会.

森崎和江 1976『からゆきさん』朝日新聞社.

山崎朋子 1978『あめゆきさんの歌 — 山田わかの数奇なる生涯』文芸春秋.

山田廸生 1998『船にみる日本人移民史 — 笠戸丸からクルーズ客船へ』中央公論社.

和歌山縣内務部 1931『和歌山縣農業概要』山成社印刷所.